

令和元年度真岡市水道事業上半期業務状況説明書

(平成31年4月1日～令和元年9月30日)

真岡市水道事業は、すべての市民に清浄でおいしく、豊富で安全な水道水を供給するため、配水管（水道水を浄配水場から各戸に送るための管）の拡張・改良、水道施設の更新・修繕等を行うとともに、料金業務の民間委託等により経費の節減に取り組み、経営の健全化に努めています。

また、水道施設の効率的な維持管理と料金体系を含めた経営の一元化を図るため、平成25年度末に簡易水道事業を統合し運営しています。

はじめに、給水状況につきましては、当期末における給水世帯は26,654世帯、給水人口は68,333人で、前年同期と比較し、給水世帯で473世帯増加、給水人口で32人減少し、普及率は85.0%となっています。給水世帯数が増加し給水人口が減少した要因は、単身世帯の増加によるものと考えられます。

配水量（配水管に送られた水量）と有収水量（配水量のうち水道料金として回収された水量）を前年同期で比較すると、配水量が0.5%、有収水量が1.1%と共に減少し、有収率（配水量に対する有収水量の割合）は0.5%減少しています。有収率が減少した要因は、配水管の老朽化による漏水や濁り水排出のための排水等によるものと考えられます。

次に、経理状況につきましては、収益的収支では、収入は予算額に対して46.3%、支出は同41.8%の執行率となっています。なお、収入の大半を占める給水収益（調定額）は、前年同期と比較して2.6%（約628万円）減少しています。

収益的収支における収支差引額は66,780千円の純利益となり、前年同期と比較して16.0%

（約1,273万円）減少しています。主な理由としては、営業外雑収益や給水収益が減少しているためです。下半期については、老朽化した共同管等の布設替え工事の実施及び漏水修繕工事を予定しています。

資本的収支では、収入は年度内の工事实績により金額が決定する企業債及び工事負担金が大部分を占めているため、予算額に対して1.0%、支出は同23.0%の執行率となっています。

なお、資本的支出における当期の配水設備拡張工事請負費は、予算額214,085千円に対して、契約済額は約69,076千円（執行率32.3%）で、亀山北及び中郷・萩田土地区画整理地内のほか下籠谷や下大曾地内などの配水管布設工事を実施し、これにより、配水管は約2,000m延長されることとなります。また、配水設備改良工事請負費は、予算額338,633千円に対して、契約済額は約228,857千円（執行率67.6%）で、市道4241号線配水管改良工事や石法寺浄水場10号取水ポンプ更新工事などを行っており、概ね計画通りに進められています。下半期については、引き続き配水管布設や施設の更新工事を予定しています。

次に、今後の経営方針につきましては、現状の経営状況は健全であります。今後、人口減少による給水収益の伸び悩みや減少が見込まれる中、水道施設の老朽化が進行していくため、限られた財源で安定した水道水の供給を実現できるよう計画的かつ効率的な経営を目指します。